NIE実践報告

1．タイトル：変わり方を見やすく表そう（折れ線グラフ）

2．学校名

新潟県長岡市立大島小学校

3．実践者名（代表者名）

穴澤　則子

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

算数　30人

6．単元（本時の学習課題）名

変わり方を見やすく表そう（折れ線グラフ）

7．目標(狙い)

新聞記事から集めた折れ線グラフをもとに、そのよさや効果的な書き方を考え、学級で調べたことを適切に折れ線グラフに表そうとする。

8．評価の視点

新聞記事から分かった折れ線グラフのよさを理解し、自分が調べたことや伝えたいことを折れ線グラフで表すことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「折れ線グラフ」（教科書教材：学校図書）6時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

（1）新聞記事から見つけた折れ線グラフについて、変化の様子が分かる言葉（キーワード）を記事から見つけながら話し合い、折れ線グラフで表すことに適した事象に気づく。（1時間）
（2）量の変化を表わす折れ線グラフをもとに、構成する要素や読み方を理解する。（1時間）
（3）資料に合わせた折れ線グラフのかき方を理解し、気温調べのグラフを書く。
（4）省略のある折れ線グラフのよさに気づく。目盛りを適切にとり、必要な部分の折れ線グラフをかく。（1時間）
（5）みんなが集めた折れ線グラフのある記事を読む。（1時間）
（6）係活動で行ったアンケート調査をもとに、折れ線グラフをかく。（1時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「一番高いところ、山になっているところでこのアイスがよく売れたことが分かる」「だんだん高くなっている。だんだん多く売れているということ」「このアイスは朝は売れていないけど、夜帰ってきてから暑いから売れる」など、事象を視覚的にとらえたり生活と結びつけて考えたりすることができた。

12．成果と課題

・「一日のアイスクリーム販売量の変化」など、子どもの興味や生活に合った新聞記事を取り上げることで、子どもは自分の生活につなげ具体的な事例を挙げて分かりやすく考えを説明することができた。
・記事から見つけたキーワードを「自分の考えを支える事実」とし、相手にわかりやすく伝えようとする発言がたくさん見られた。
・記事の内容が難しいなど、4年生の子どもに適した新聞記事、グラフがなかなか見つからない。できるだけ子どもの生活に合った新聞教材を提示することが大切である。